

# いわぬまぶんかざいつうしん 岩沼文化財通信

だい かいぶんかざいきかくてん  
～第43回文化財企画展②～



阿武クマさん

第 17 号

2024年5月24日発行

岩沼市ふるさと展示室(市民図書館2階)

TEL:0223-25-2302

質問受付中!

## 原遺跡第7・8次調査の速報展!開催中!

げんざいかいさいちゆう

現在開催中の企画展では、見つかった本物の土器に触れること

ができるコーナーを設けています。土器は大きく2種類、

はじき  
「土師器」

すえき  
「須恵器」

です。今回はこの2つの土器について解説します。



土器にさわってみようコーナー

### 土師器

にた 煮炊き(料理)むき

こふんじだい

古墳時代から平安時代にかけての土器です。縄文時代から続く

技術でつくられたもので、地面にほった浅い穴などを使って700℃

から800℃程度の温度で焼いた土器です。低温で焼かれるため、赤

茶色になります。比較的壊れやすく保水力もそれほどありません。

東北地方の土師器の中には、内側が黒いものがあります。こ

れは「黒色土器」と言い、内側を黒漆や墨などでコーティン

グし、水分が染み込まないように工夫されたものもあります。

※水に強くはないが、火にかけることができる。



1次調査で発掘した土師器



地面をほり、土器を焼く

それぞれの特徴に合わせて使  
い分けて使用していました。

### 須恵器

ちよぼう  
貯蔵・保存むき

土師器と同じく、古墳時代から平安時代にかけての土器です。

斜面にほったトンネル状の窯の中で焼かれます。窯の作り方が

土師器と違うため、温度が1200℃から1300℃と高温で焼き上げら

れ、硬くて丈夫です。この特殊な窯の作り方は朝鮮半島から伝

わった当時最先端の技術でした。高温で焼かれるため、色は灰色

になります。

※完成品は水に強いですが、火にかけると破裂してしまいます。

※窯を造る高度な技術が必要。



8次調査で発掘した須恵器

熱が上にのぼり温度  
が上昇する。

